

令和6年度 病虫害発生予察 特殊報 第2号

病虫害名： チュウゴクアミガサハゴロモ

Ricania shantungensis (Chou & Lu, 1977)

対 象： チャ

植木類（ツツジ、ドウダンツツジ、ツバキ、ハナミズキ、モミジなど）

果樹類（カキ、キウイフルーツ、ブルーベリーなど）

1 病虫害情報の内容

チュウゴクアミガサハゴロモの発生と被害を、東京都多摩地域において確認した。

2 発生経過

- 令和6年10月に、チャおよび植木類、果樹類の圃場でチュウゴクアミガサハゴロモ成虫の寄生および産卵痕を確認した。
- 本種は中国原産であり、海外では韓国、トルコ、フランス、ドイツ、イタリアに分布が拡大している。国内では平成29年に大阪で初めて確認されて以降、本州、四国および九州で発生が報告されている。作物への被害については神奈川県、埼玉県、山梨県、福岡県で特殊報が発表されている。

3 形態

成虫の体長は14~15mm、前翅長14mm程度。茶褐色から鉄さび色の前翅の前縁中央部に扁平で半円形の白斑がある（図1、2）。

幼虫は白色で、腹部から白い糸状の蠟物質の毛束を広げる（図3）。

卵塊は樹木などの枝に産み付けられ、産卵痕は白色の蠟物質で被覆される（図4）。

4 生態

本種は広食性であり、カキノキ科、カバノキ科、クワ科、ツツジ科、ツバキ科、ニシキギ科、バラ科、ヒノキ科、フトモモ科、ブナ科、マメ科、ミカン科、ミズキ科、モクセイ科、モチノキ科等の多くの樹木類およびキク科草本植物で寄生が確認されている。

5 被害

産卵の際に枝を傷つけるため、枝の枯死や樹勢の低下が生じることがある。また、産卵痕は白色の蠟物質で覆われるため植木類では景観を損ねる。

成虫および幼虫は枝に寄生し、吸汁する。発生が著しいと排泄物によりすす病が発生する。

6 防除対策

- (1) 令和7年1月現在、本種を対象とした登録農薬はない。
- (2) 産卵された枝を除去し、適切に処分するなど、耕種的防除に努める。

7 参考文献

- (1) 神奈川県特殊報、埼玉県特殊報、福岡県特殊報、山梨県特殊報、石川県防除室だより
- (2) 外村俊輔・大原賢二. 2024. チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977) の徳島県からの初記録. 徳島県立博物館研究報告 34: 77-80



図1 ナシ葉上の成虫
(東京都農林総合研究センター提供)



図2 粘着版に捕獲された成虫



図3 ツバキ枝上の幼虫
(東京都農林総合研究センター提供)



図4 枝上の産卵痕
(左：ブルーベリー、右：ツバキ)